

家族農業の10年

表紙のことば

写真と文：鈴木正美

〈高木謙太郎さんご一家〉

今回取材に訪れたのは、キャベツやネギを中心に栽培する高木謙太郎さん。

「大学時代はアメフトをやっていました。卒業してJAに入組したんです。あるとき、ふと地元が大切だなあって思って。農業は自分で時間の使い方もある程度決められるし、地域にも貢献しやすいかなあ。消防もやってますし、青年部では子どもたちに農業の素晴らしさを伝える活動もしています」

なるほど、背が高く、がっしりとした体躯の、若いけどいかにも頼りがいのある男性です。



青年部の部長も務める謙太郎さんの圃場は河原沿いにありました。富山県は1級河川だけでなんと5本もの川があり、豊かな山の栄養を含んだ水に恵まれています。

「この地区は水はけがいいんです。暑い夏でも風の通り道で、涼しい。先人たちが耕し続けたおかげで土もいい。でも自然環境がきつときもありません」

実際20年前には川が増水して水に

つかったときもありました。台風のときは、消防で地域の見回りをしながら、やはり自分の圃場が気になるといいます。

謙太郎さんは3代目。農業技術は農業大学校で学びましたが、精神的なところは家族や先輩に学んだと話します。キャベツ畑を走り回る朔太郎君と彩詠ちゃんにも謙太郎さんの地域を大切にしたい心が受け継がれていきます。

JAグループ 共通コンテンツ

食・農・地域の暮らしを支えるJAの存在意義や取り組みを紹介するJAグループ共通コンテンツ（JA新聞連『JA広報通信』にて提供中）。今年度は、「未来を拓く協同組合 JAと農業」をテーマに毎月分かりやすく解説します。JA広報誌への掲載等により、組合員や地域住民への情報提供資料として、ぜひご活用ください。

未来を拓く協同組合

JAと農業

監修=JCA (日本協同組合連携機構)

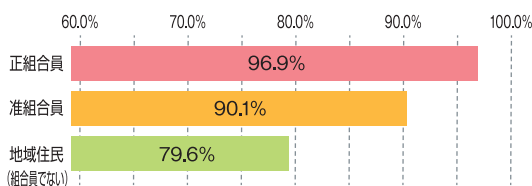
これからも続くJAの「自己改革」

JAは、農業者と地域の皆さんのよりよい暮らしを実現するため、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革に取り組んでいます。正組合員に対しては約97%、准組合員に対しては約90%のJAが訪問活動を行っており、各JAが地域の組合員のニーズを踏まえて、独自の改革を進めています。

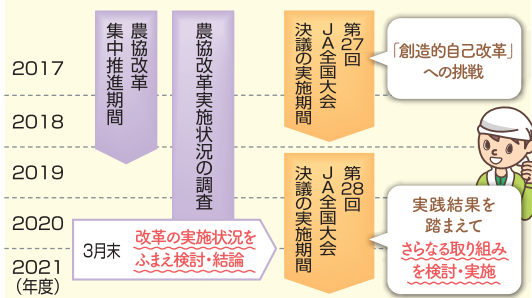
自己改革の取組内容を定めた第27回JA全国大会決議の実践期間は19年3月。政府が定める農協改革集中推進期間は19年5月で期限を迎えますが、JAの自己改革に終わりはありません。現在、全国のJAでは、JA運営や自己改革に対するご意見をお伺いするアンケート調査を実施しています。組合員に必要とされる組織となることを目指し、さらなる改革を進めます。

【農協改革集中推進期間】
(のうきょうかいかくしゅうちゅうしんきかん)
政府がJAに対して「重大な危機感をもって」改革を実行するよう要請している、14年6月から19年5月までの期間。「規制改革実施計画」(14年6月閣議決定)に定められている。

訪問活動の取り組み状況 (対象者別)



自己改革・農協改革のスケジュール



耕そう、大地と地域の未来。